

平成29年度 学 校 評 価（自己評価及び学校関係者評価）

	1	2	3	4
項目	学習指導について (授業研究等)	生徒指導について (基本的生活習慣等)	進路指導について (進路行事・進路情報等)	特別活動について (部活動や学校行事等)
今年度目標	①授業改善に向け、授業研修の充実を図る。 ②多様な進路目標に対応できるように教育課程の見直しを始める。 ③ミスのない入試業務のために、校内要項を見直す。	①基本的生活習慣の確立を図る ②ルールを自主的に守る心を育成し、マナーの向上を図る。 ③生徒どうし、生徒と教師間の相互理解を促進する。	①進学者に対する学習指導について教務と連携を図りながら指導する ②外部機関と連携し、就労率の向上を目指す ③進路学習と資格取得を通じて進路意識を高める	①責任を自覚し主体的に行動する生徒の育成 ②学校行事の円滑な運営と内容の充実化 ③図書室の活用・読書の推進
実施状況・達成状況	①教科担任が科目ごとにそのクラスについての効果的な指導、苦慮している点、配慮すべき事項を記入したシートをもとに互見授業を行い、全職員参加の授業研修を実施した。また、授業改善が目に見える形でわかるように、授業アンケートを今年度より年2回実施した。 ②進学希望者にも対応できるようなカリキュラムを目指し、昨年度から検討されていた「応用数学」を、来年度入学生の3年次に設定することができた。 ③入試に関する校内要項を見直し、細かな所まで打ち合わせている。	①生徒は多様であるが、校内は喧嘩が少なく昨年より穏やかで、秩序が守られている。日々小さな問題が出し抜けに起こる環境は変わらない。今年度も不登校者、コミュニケーション不足の回復途上で、他者と軋轢を生みながら生徒や振る舞いが見られた。一部に運動が多いなど基本的生活習慣に課題を残す生徒もいた。 ②ケータイなどの利用活用調査は2年目となり、生徒の実態は掌握されつつある。利用の実態は2度目の保護者会で報告した。SNSの研修も3回に増やした。 ③3年生1名が競の運転する車に同乗している、交通事故にあった。教習所を経た生徒の免許証は学校預かりとしている。 ④デートDVに関する講話を実施した。校内の男女交際の関与は手探りに近い。 ⑤多くの生徒はアルバイトをしている。社会の教育力によっても育てられている。	①進学者に対しては、教務や全日制と連携を図りながら指導することができた。 ②3年生の進路については担任が面談を繰り返し、生徒の希望を踏まえながら適正に進路を実現することができた。 ③生徒全体で行った進路講話や、1～2年生を対象とした進路学習など、多岐に渡る学習を通じ進路についてより考えさせることができた。 ④資格取得に積極的にチャレンジをする生徒が多かった。また、合格率も高かった。	①学校行事においては、生徒会役員が中心となって生徒一人一人が与えられた仕事に責任をもって取り組むことができた。部活動においては、それぞれが目標をもって練習に励む様子が見られた。 ②角高祭では職員間で情報を共有しながら進めることができた。生徒会役員選挙では地歴・公民科の先生の協力によって、本番に近い形で実施できた。 ③国語科の先生の協力により、授業で本の紹介カードを作ったり、文化委員が図書日より発行したりして読書の推進に努めた。生徒が活字に触れ、読む習慣を身に付けるきっかけとして、新聞コーナーを設置した。
成果と課題	①全職員が互見授業や授業研修に対し協力的に取り組み、職員間の情報交換も活発になった。また授業アンケートでは第1回より第2回において良い評価が出ており、授業改善が進んでいると理解することができた。 ②「応用数学」において、どのような授業を、どのように行っていくのかなどの具体的な計画はまだ決まっていない。	①処分される問題行動はなかった。いじめ調査は2度実施、1件の申告があったが、その後、特に問題の進展はみられなかった。 ②教員間の和が大切にされ、頻りに情報交換が行われ、初期のうちに問題の芽を摘み取る実践が行われている。 ③生徒間の問題は新環境の1年目で起きがちで、入学初期指導が大切となる。基本的生活習慣、ケータイ、異性関係、登校指導などには早期の、継続的な指導が必要である。 ④SNSに関する研修は今後重要で、質を議論する段階にある。自主性育成のため、ケータイは教室で自主的に提出する仕組みだが、職員保管を希望する声がある。 ⑤信頼関係は十分あるが、幼い言動の生徒には叱り方を配慮し正対する必要がある。	①職場見学の業種が製造系へ偏りがちなので、他の業種への開拓が必要。 ②1～2年生を対象に早い段階から適性検査を実施することができた。 ③進学者向けの講話や、学校見学の情報提供が少なかった。 ④アルバイトを継続して行わせるだけではなく、基本的な生活習慣を確立できるように指導が必要である。	① 先生方の指導により、部活動や生活体験発表など各種大会で生徒のめざましい活躍が見られた。普段目立たない生徒にも活躍する機会を与え、自己有用感を高められるように働きかけた。 ②もっと生徒たちが中心になって企画・準備・運営等を行い、達成感が得られるようにするために必要な支援をしていきたい。学校行事に関するアンケートの意見をふまえ、より良い学校行事の在り方を考えていきたい。 ③昨年度より図書室の利用者が増えた。しかし生徒の貸出件数は年間19件であり、充分に活用されているとは言えない。今後、図書日よりの発行を継続し、来年度は年間一人一冊の貸出を目指したい。
評価	A	B	A	B
次年度への提言	①多様な進路目標に対応するためのカリキュラムを継続検討する。 ②Ⅱ部のあり方を検討する必要がある。 ③教務に関わる業務の効率化のため、年間指導計画や成績一覧表等の様式を見直ししたい。	①基本的生活習慣の確立は次年度の重点目標の一つであり、 ②問題行動を引き起こす要因は単一ではなく、親子関係の問題、過去のトラウマなども全ては事前に掌握できない。現在の環境では他校の指導がモデルにならず、トラウマに対処するため未然防止と早期発見の取り組みに重点を置きたい。少ない職員だが、全員で緊密に連携し、生徒への支援を充実させる今の体制を継続したい。 ③入学予定者に関する中学からの情報は、年度当初の指導方針を決める有益な情報である。生徒指導主事以外に必要な職員を参加させることが望ましい。	①進学希望者に対する個別対応や、情報提供を各分掌と連携を図りながら行う。 ②応募書類の提出に不備が多かったので、書類の説明や提出の仕方などを繰り返し説明する必要がある。 ③年度初めに資格取得の目標を立てさせる。	①生徒会活動について全校生徒への連絡や報告を目的として、生徒会だよりを発行したい。 ②図書だよりの発行、新聞の掲示を文化委員の仕事として位置づけたい。 ③今後も各教科担任の先生に図書室の積極的な活用をお願いしたい。
学校関係者の御意見・御感想	・（職員評価より） 17、19頁にC評価在り。満足度を下けている。残念。分類系ではA、B合わせ90%をこえ積極的な学習指導や方向性をもって取り組んでいる。 ・（保護者評価より） ・一年時はスタート年であり、課題を背景に学習が進められているのであろうが、学校と保護者とのコミュニケーション不足があると思う。全般的には一昨年から数値は上昇にあり好ましく思う。70%はやや満足と思われる。 ・授業改善が年度で良いほうにあると思われる。新しい教科導入については、先立校等の情報等を得ながら、スムーズ導入を期待する。 ・授業内容を工夫されているのが拝察されます。	・パーフェクトに近い数値を見ることが出来、職員教師が基本的な規則正しい生活行動を期待し、道徳心や精神的向上に情熱を注いでいることが認識できる。さらなる精進をお願いしたい。 ・約束を破り、嘘をつく、他人の物を盗み入るを働ける。さらには人を差別する非人間的行為は秩序を乱し平和を壊す元である。ルールを守り育てる指導は高評価を得ている。反面C、D、E値の減少に期待している。 ・「18歳成人」について、未だ開議決定されていないので、考えていないという理解を得たが、近い将来、決定されるものと考えられるので、予め、準備を進めておいていただきたい。 ・アルバイトをしている生徒が多いようなので、お金に関する指導も必要と感じた。	・資料情報提供項目に保護者対教師にギャップが見える。保護者は将来の進路選択を早く確認の意向が強いのであろう。さらに情報交換を高め、理解度をA・B評価にしたい。高校は職場輪旋所ではない。 ・一年時の状況がここでも数値的に現れている。E解答が多い。理解を進めるため、何らかの工夫が必要でょう。保護者との連携は必須条件。進学、就職を含め苦戦していることと思われるがより一層の研鑽をお願いしたい。 ・進学希望生徒に対しては、全日制の講話等と一緒に聴講する機会を設けることは機会を設けることはできないかもしれないだろうか。 ・全日制と同様に「夢ナビライブ」や大学模擬講義に参加してはどうか。選択肢を広げることができると思う。	・自己評価はBである。Cがあるのが要因であらうか。来年度目標として生徒会報を発行とある。良き会報を祈る。図書利用が少ないようであるが、一冊の良き本は人生を成功に導くことと云う。多読でなくとも、良書一冊を一年かけて読んで戴きたい。 ・評価は高い。学習のみでなく、行事や部活動の場において人間性は特に鍛えられる。自主的に積極性を感ぜられる。一人一人の良き個性がさらに研がれることは、他校では、支援校との交流があること、他校では、なかなかできないことだと思ふので、継続しながら全日制も参加できるようにすればと考える。 ・生徒会だよりを発行する際は内容を工夫して情報を発信してほしい。
評価	B	A	B	A
学校運営に全般御意見・他に感謝する学校関係者の	・様々な国との国際交流は他校にはない特色と思う。その交流をいかに負担が少なく実施するかを考えながらも、生徒の成長にいかにより活用するかという視点から取り組みを工夫することも大切ではないだろうか。 ・探究活動を、グループの取り組みではなく、一人一人が自分の問題意識でテーマを設定し、取り組み、発表するようにできないものだろうか。 ・学校評価というシステム自体、個人的には違和感を感じる。 現在の0歳児が入学する15年後までの、角館高入学者予測数の資料があれば拝見したい。 ・数日前より3年生が含まれ外を歩いて登下校する生徒さん達の元気な声がある。又4月迄はこの大勢の生徒の声を聞くことが出来ないと思うと少しさびしくもあります。今年の新入生の受験生の数定員を大きく上り良かった。春はそこまで来ているようです。 ・校外指導（春休の交通安全週刊時）にPTAを核とした、地域の社会資源（防犯関係、JR角館駅）を取り込んでいただきたい。PTAとしての活動も活発化し、生徒の健全育成の一助となり得ると思われる。 ・「角館」という地域性を生かした学校としての取り組み（2年次の武家屋敷通りでの歴史案内等）を継続・発展させて行って欲しい。 ・学校アンケートでの生徒と保護者の満足度には差がある。保護者に学校生活内容を理解してもらうことの一手段として、学校HPの更新があると思う。現在は、担当職員の方が頑張ってアップしていることもあり、各種行事等ごとに認知することができている。保護者あてに学校HPを見てもらいたい旨のPRをしたらどうかと考える。 ・今年も「おとなし」に力を入れているので、引き続きご協力の程よろしくお願ひします。 ・通学時のあいさつですが、する生徒としない生徒というのが気持です。あえて付け加えますと、入学式、卒業式両行事に出席させていただいておりましたが、生徒にもこの二つの行事に主体性を持たせることにより、さらに暖かいのある式になるのではないのでしょうか。 最近の子供は青春時代が長すぎる様に思いますが、それは一つの要因に食っていくことに困らず家庭に於いても生産や生活に家族共々苦勞を担うことが少なくなっていることに起因するようないが致します。義務教育から10数年の長い期間恵まれた学生生活を送り恵まれすぎです。今の貴重な時間を無駄にすることなく、やがては数かれたルールから外れて進路の自立選択が求められる社会の一員として貢献する存在となります。学業以上に豊かな人生について問い、人間性や哲学することを期待いたします。 ・教職員の応対が素晴らしい。おとなしをしようという心を感じた。 ・教室環境をもう少し整備して欲しい。また、教室環境が乱れたそれに気がつき、環境を整える感性を持った生徒を育てて欲しい。例えば、ゴミ箱がいっぱいになったらその時点で捨てるなど細かなところまで心が行き届くようになればと思う。			